

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成21年1月6日（火） 11：00～11：30
場 所：事務局第二会議室（小白川キャンパス、事務局4階）

学 長 挨 拶

発 表 事 項

1. 結城プラン2009について
2. 平成21年度運営費交付金等の内示状況について
3. 大学連携推進室の設置について
4. 男女共同参画シンポジウムの開催について
5. 世界天文年公認イベント「ガリレオの見た宇宙」の開催について

お 知 ら せ

1. 平成21年度入試直前相談会の開催について
2. 第2回「置賜バイオマスフォーラム」について

（参 考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：1月20日（火） 11：00～11：30

場 所：事務局第二会議室（小白川キャンパス、事務局4階）

平成21年1月6日
山形大学

「結城プラン2009」を作成

山形大学は2009年の行動計画である「結城プラン2009」を作成しました。

【ポイント】

● 「結城プラン2008」の検証を踏まえて作成

→「結城プラン2008」の153プランの82%を達成

→「継続検討課題」となった計画にも「2009」で再チャレンジ

● 2009年に重点的に取り組むべき58のプランを精選し、達成目標を明示 (例)

→新たな教養教育の実施組織を新設します。(教育・PLAN1)

→新たな教養教育を平成22年度新入生から提供します。(教育・PLAN2)

→有機エレクトロニクスに関する世界的な研究拠点を整備します。(研究・PLAN1)

→中国の東北部に新たな海外サテライトを設置します。(国際交流・PLAN1)

→海外の協定大学とのサマープログラムを実施し、50人の学生教職員を受け入れます。

(国際交流・PLAN3)

● 山形大学全体で改革を計画的・継続的に実行

→「結城プラン2009」を全教職員のほか在学生及び全新生に配布

→大学HP(学長室だより)で公開

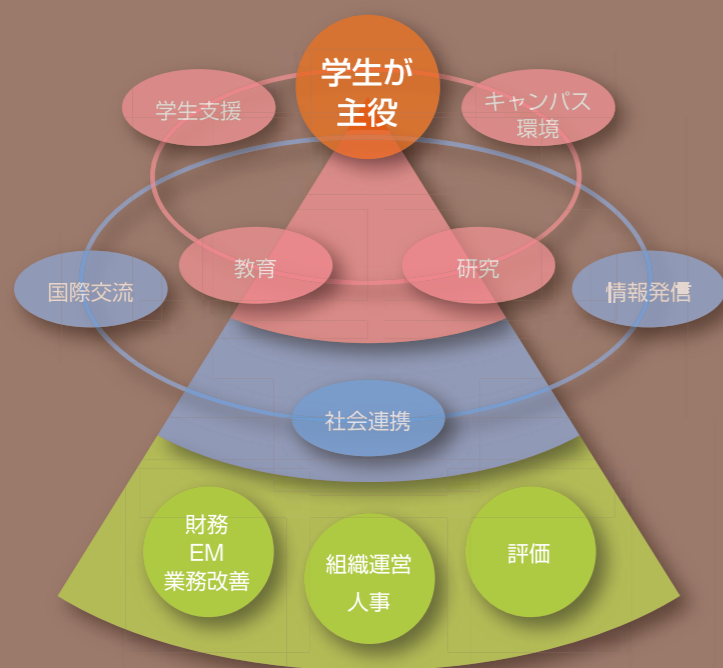
→12月に達成状況を検証し、来年1月に「結城プラン2010」を作成

(お問い合わせ先)

企画部経営企画ユニット 黒沼

電話：023(628)4190

e-mail:kikakucho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



結城プラン 2009 学生が主役の大学創り



国立大学法人
山形大学

「学生が主役の大学創り」をめざす結城プランは毎年達成状況を検証します。
ご意見・ご要望は、下記までお願いします。

編集発行

●
山形大学役員会

お問い合わせ先

●
山形大学企画部経営企画ユニット

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 Tel:023-628-4190 Fax:023-628-4185
e-mail:kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>



何よりも 学生を大切にする 大学を目指して

私は、2008年1月に「結城プラン2008」を作成して、山形大学が当面取り組むべき153の課題と、その達成目標を提示いたしました。そしてこの一年間、このプランに沿って、足場を踏み固めながら一歩ずつ、山形大学の改革を進めてまいりました。

このプランの実施状況を検証した結果、約8割の項目では、その目標が達成される見通しとなっています。これまで、このプランの実施のために大変な努力を払っていただいた5人の理事・副学長と、関係するすべての教職員の皆様に対し、心から御礼を申し上げたいと思います。

山形大学の改革は、いまだ緒に就いたばかりです。私が学長就任に当たり掲げた2つの基本方針、①何よりも学生を大切に、学生が主役となる大学創りを、②教育、特に教養教育を充実させるの実現のためには、更なる努力を積み重ねていかなければなりません。

このたび、「結城プラン2008」を実施した結果を受けて、新たに、「結城プラン2009」を策定し、山形大学が次のステップとして取り組むべき58の課題と、その達成目標を明示いたしました。特に今年、山形大学の教養教育を再構築して、新たな教養教育を提供していくための準備作業が本格化してきます。また、留学生の受け入れの拡大や海外拠点の整備にも積極的に取り組んでいくつもりです。さらには、有機エレクトロニクスの分野で、世界的な教育・研究拠点を構築することを目指します。

「結城プラン2009」を実施していくためには、昨年以上のエネルギーが求められますが、理事・副学長と力を合わせ、全力で取り組んでまいります。そして、今年12月には、その達成状況を検証し、来年1月には、それに基づいて、「結城プラン2010」を作成します。

私は、このようにして山形大学の改革を計画的・継続的に進めていくつもりです。そして、山形大学が何よりも学生を大切に、教育を重視する「キラリと光る存在感のある大学」として発展していけるように頑張っておりますので、皆様方の温かいご理解とご支援を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。

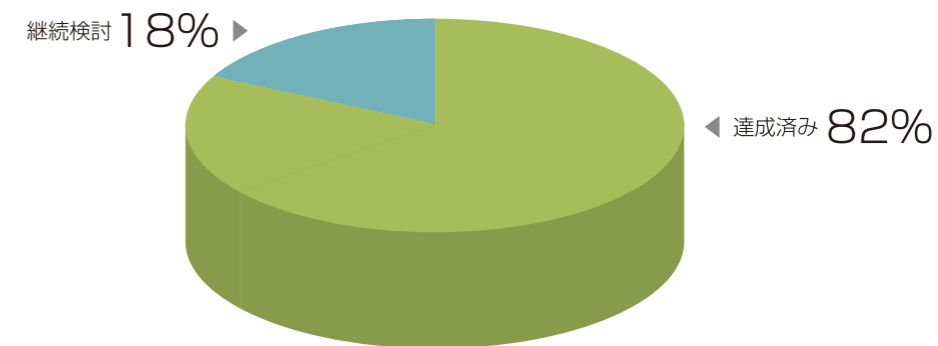
2009年1月



国立大学法人山形大学長 結城章夫

「結城プラン2008」の検証結果

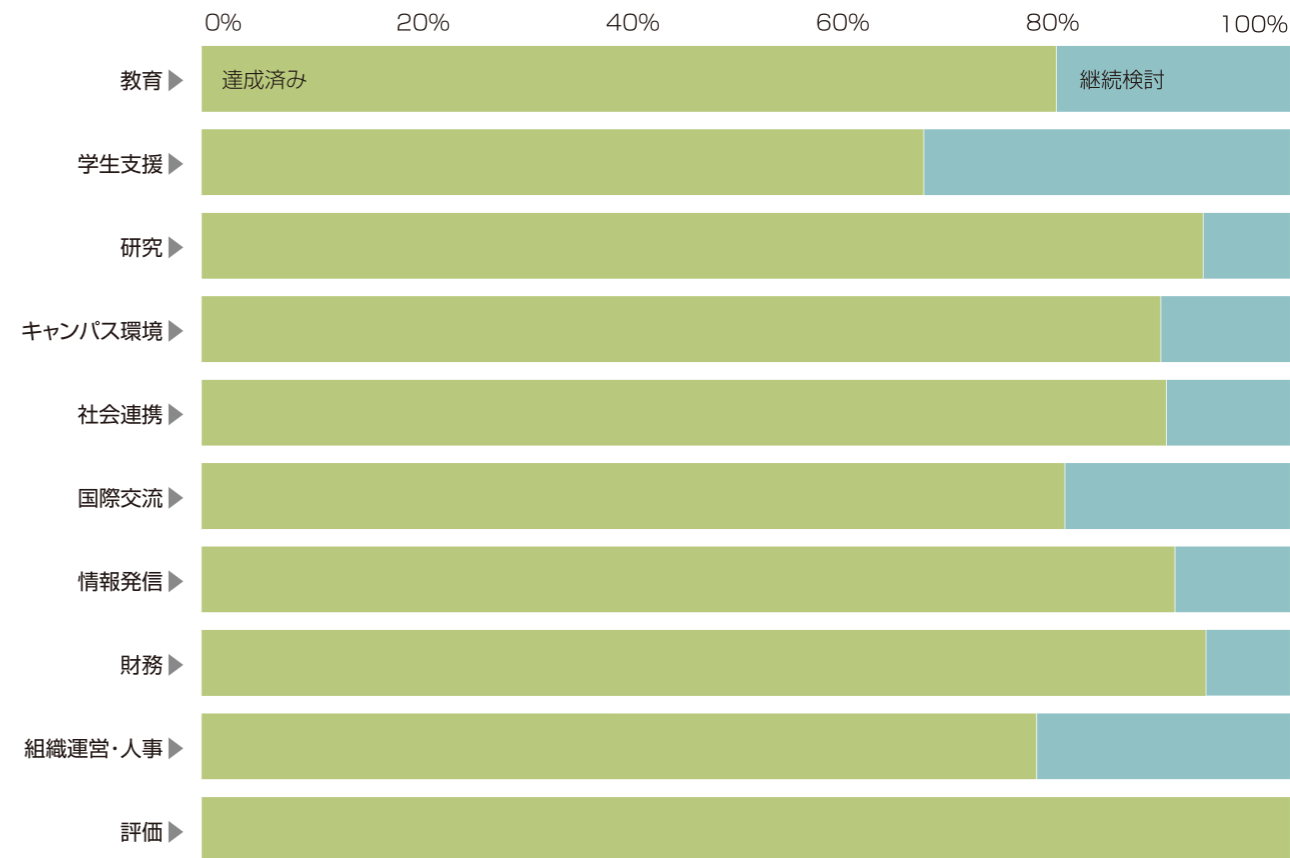
【「結城プラン2008」全体の状況】



進捗状況を各執行担当理事が自己評価し、既に82%の計画が達成済となっています。

「結城プラン2009」は、この検証結果を受けて「継続検討」となった事項への再チャレンジも含めて策定しました。

【項目別の進捗状況】



山形大学の基本理念

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指す。

学生教育を中心とする大学創り

何よりも学生を大切にし、学生が主体的に学ぶ活気のある大学を目指す

豊かな人間性と高い専門性の育成

健全な批判精神に裏付けされた幅広い教養を基に豊かな人間性を育み、基礎学力と高い専門性を基盤として課題発見・解決能力に優れた人材を育成する

「知」の創造

人類の諸課題を解決するため山形大学独自の先進的研究を推進する

地域及び国際社会との連携

自然環境保全を意識し、地域に根ざして世界をリードしていく大学を目指す

不断の自己改革

計画・実行・評価・改善の改革サイクルによる不断の自己点検評価を行い、基本理念を実現するために大学改革を継続する

C O N T E N T S

06 p

教育・学生支援 (担当:中島勇喜理事)

08 p

研究・キャンパス環境・評価 (担当:河田純男理事)

10 p

社会連携・国際交流 (担当:小山清人理事)

12 p

組織運営・人事・情報発信 (担当:北野通世理事)

14 p

財務・EM・業務改善 (担当:三觜守理事)



執行担当

中島 勇喜 理事

教育

Education

【基本方針】

学士課程教育を通じ、自立した一人の人間として、力強く生き、他者を理解し、共に社会を構成していく力を養います。

PLAN 1 学士課程教育※における方針(学位の授与方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針)を明確化します。

※学士課程教育
学士課程教育は、従来、「学部教育」などといった「組織」に着目した呼び方がなされていましたが、学位は知識・能力の証明として大学が授与するものであることが、国際的に共通理解になっており、その学位を与える課程(プログラム)に着目して整理し直したものです。

PLAN 2 新たな教養教育の実施組織を新設します。

PLAN 3 新たな教養教育を平成22年度新入生から提供します。

PLAN 4 「学士力確保と教育力向上に関するプログラム※」の採択を目指し、「YU-GP(山形大学学士力向上制度)」を開始します。

※学士力確保と教育力向上に関するプログラム
文部科学省が平成21年度から実施を予定している事業。中教審で指摘されている学士力の確保や教育力向上のための各大学等の実践を促し、達成目標を明確にした効果的な優れた取組を支援するためのプログラム。

PLAN 5 グローバル化推進のため、英語による授業を整備します。

PLAN 6 課題発見・問題解決型授業を拡大するため、「エリアキャンパスもがみ※」の現地体験型授業を充実させます。

※エリアキャンパスもがみ
総合大学の特性を生かして、学生を主役とした「地域の活性化と人材育成」と「学生の社会性と課題探求能力の育成」を目的とし、最上地方全体をキャンパスに見立て、教育・研究・地域貢献を展開する山形大学独自の取り組み。

PLAN 7 山形に密着した教育・研究を展開するため、「大学コンソーシアムやまがた※1」を活性化し、「最上川学教育プロジェクト※2」の実施等、山形に密着した教育研究を実施します。

※1 大学コンソーシアムやまがた
平成16年4月に設立された、山形県内の大学・短期大学・高等専門学校・放送大学等の教育機関と山形県の連合組織。
※2 最上川学教育プロジェクト
「学生の体験型・PBL型プログラム」「最上川学俯瞰講義」「最上川学バーチャル研究所」など、大学コンソーシアムやまがたが実施する事業。



学生支援

Student Support

【基本方針】

学生が主役の大学として、入学してから卒業するまでの大学生活全般に対する学生支援を充実させます。また、人間性豊かな社会人養成を目的として、課外活動・課外教育の充実・活性化を図ります。

PLAN 1 学生各人の修学に関わる多様なニーズに応えるため、「YU-サポーターシステム※」を充実させます。

※YU-サポーターシステム
大学教育の機能向上を目的として、平成16年度入学者から新たな成績評価制度を導入し、アドバイザーによる指導・助言を行う山形大学独自の修学支援システム

PLAN 2 学生の意欲ある活動を支援するため、「山形大学元気プロジェクト※」を充実させます。

※山形大学元気プロジェクト
学生の課外活動を活性化し、同時に学生の力によって山形大学を元気にすることを目的とした独自のプロジェクト。

PLAN 3 就職状況の変化に対応するため、「学生キャリアサポーター※」と連携した就職支援事業を強化するとともに、公務員試験講座や各種資格の模擬試験など就職のための各種講座を充実させます。

※学生キャリアサポーター
学生への支援はもとよりサポーター個々のキャリアスキルの向上を目的とした山形大学の学生によるボランティア組織。

PLAN 4 学生のボランティア活動を推奨するとともに学生の社会参加を支援するため、情報提供の場としてのホームページを開設します。



女子バスケット部

PLAN 5 学生の修学を教育的・奨学的両面から支援するため、学生がスタッフの一員として、大学の企画・運営・社会連携等に参画し奨学資金を得る「アドミニストレイティブ・アシスタント(AA)制度」を整備し、200人を目標に採用します。

PLAN 6 学生の通学の利便性を図るため、試行期間中の大学専用バスの利用状況を踏まえ、恒常的な運行計画を策定します。

PLAN 7 大学での充実した学生生活を支援するため、学生生活実態調査を実施します。





執行担当

河田 純男 理事

研究

Research

【基本方針】

競争的環境の基での基礎研究を推進しつつ、地域立脚型の学術研究及び独創的で国際的に通用する高い水準の研究並びに人材育成へ重点投資を進めます。

PLAN 1 本学独自のYU-COE(山形大学先進的研究拠点)として、有機エレクトロニクスに関する世界的な研究拠点を整備します。

PLAN 2 科学研究費補助金※獲得金額の前年度比20%増を目指します。

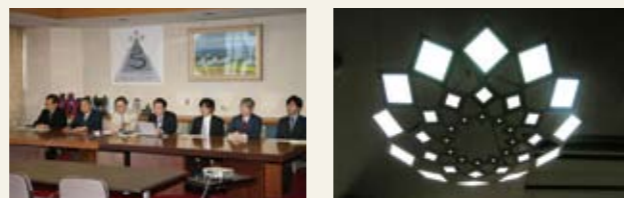
※科学研究費補助金
人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用まであらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする競争的研究資金で、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。

PLAN 3 優秀な若手研究者を育成する「テニュア・トラック制※」を構築するため、競争的研究資金の獲得を目指します。

※テニュア・トラック制
若手研究者が、厳格な審査を経てより安定的な職を得る前に任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組み。

PLAN 4 男女共同参画を推進するため、学内体制整備を行うとともに競争的研究資金の獲得を目指します。

PLAN 5 研究環境の安全性をさらに充実するため、バイオハザード等に関する管理体制の整備を進めます。



グローバルCOE採択! 医学系研究科「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」 ELシャンデリア



有機エレクトロニクスの分野で、世界的な教育・研究拠点を構築することを目指します。

キャンパス環境

Campus Environment

【基本方針】

世界水準の教育研究成果の確保を目指し、本学の理念に相応しいキャンパス環境の整備充実を計画的・重点的に推進します。

PLAN 1 山形大学の将来構想「魅力あるキャンパス創り」の実現を目指し、「キャンパス整備方針・計画※」を国際化対応や学生視点に立ってバージョンアップします。

※キャンパス整備方針・計画
大学キャンパスの施設・機能・景観等について、教育・研究の進展や社会・地域の情勢を踏まえて、大学の理念に沿ったキャンパスの理想像を描き、その実現のための長期的な整備計画を定めたもの。

PLAN 2 「地域に根ざし世界を目指す」山形大学に相応しいキャンパスづくりの一環として、各キャンパス正門周辺の整備に着手します。

PLAN 3 「自然と人間の共生」という山形大学のテーマに相応しいキャンパスの実現のため、本学の「環境配慮型施設整備標準仕様※」を定めます。

※環境配慮型施設整備標準仕様
施設の設計の際に、エネルギー消費量や二酸化炭素排出量等の環境への負荷が少ない材料や工法、建築設備機器等を標準として採用することを定めるもの。



小白川キャンパス 1920~1963



小白川キャンパス 1964~1977



小白川キャンパス 1978~現在



「自然と人間の共生」
小白川キャンパスのホテル

評価

Evaluation

【基本方針】

学校教育法及び国立大学法人法に基づき、自己点検評価、法人評価および認証評価が義務づけられています。山形大学は、社会への説明責任を果たし、大学諸活動の質の向上を図るため、不断の自己点検・評価を行うとともに、効率的な第三者評価対応を実現します。

PLAN 1 最終年度を迎える第1期中期目標・中期計画の検証を厳格に行い、新たに策定した基本理念及び「山形大学の将来構想※」に基づく第2期中期目標・中期計画を戦略的に作成します。

※山形大学の将来構想
10年後の山形大学のあるべき姿を念頭に置いて大学経営の長期的な方向性を定めたビジョン。学生委員を含むプロジェクトチームにより2008年10月に策定。

PLAN 2 引き続き「組織評価※」を実施し、教育研究活動の改善と一層の活性化を図ります。

※組織評価
平成18年度から実施している各部署の教育研究の質の向上及び運営の活性化を図ることを目的とする全学的な自己点検・評価。平成20年度から書面審査に加え、新たに部局長からのヒアリングを実施。

PLAN 3 教員の個人評価を着実に実施します。また評価実施状況を分析し、ホームページで公開します。



組織評価におけるヒアリング



山形大学の将来構想



執行担当

小山 清人 理事

社会連携

Social Responsibility

【基本方針】

地域・社会の目線とマッチングさせながら、学術情報の交流を促進し、研究及び教育の成果普及による社会貢献を目指します。

PLAN 1 知的財産の顕在化、権利化を促進するため、各局に知的財産推進教員を配置して知的財産に関する認識と権利化活動を行い、100件の発明届と10件の知的財産の大学出願を目指します。

PLAN 2 学生、卒業生などを中心とした事業化促進を行うため、地域共同研究センター及び大学院ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを再編して国際事業化戦略センター構想を策定し、インキュベーションとコーディネート機能を付与します。

PLAN 3 「やまがた未来科学プロジェクト※」の充実と促進を図り、科学的思考能力を備えた人材の育成を目指し、年間2,200名を対象とした科学実験教室を開催します。

※やまがた未来科学プロジェクト
小学生から大人までの全県民体験型の科学実験教室を行い、科学的思考能力を備えた将来の山形、日本を支える人材育成を目的とする本学独自のプロジェクト。

PLAN 4 「大学コンソーシアムやまがた」における各機関との連携を基盤として、単位互換及びeラーニングの充実、産官学連携、知的財産に関する普及活動などを行うため、大学連携推進室を設置し、「大学コンソーシアムやまがた」を抜本的に強化・発展させます。

山形大学・立命館大学 包括的協力協定 締結式



立命館大学との交流協定



SCITAセンターにおける科学実験教室



国際交流

International Exchange

【基本方針】

山形県、「大学コンソーシアムやまがた」と連携して留学生の受入増加を図るとともに、支援体制を充実し、学生、県民の意識のグローバル化を図ります。

PLAN 1 山形県とゆかりの深い中国の東北部に、新たな海外サテライトを設置します。

PLAN 2 山形大学への留学生受入の拡大を図るため、サテライト等を利用した情報発信の充実と渡日前入学許可制度の整備を行います。

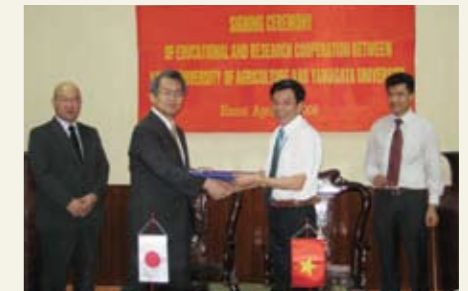
PLAN 3 山形大学と山形の魅力を協定大学の学生に広めるため、海外の協定大学とのサマープログラムを実施し、50人の学生教職員を受け入れます。

PLAN 4 「留学生30万人計画※」を受け、数値目標の設定、教育プログラムの開発、宿舍の整備、就職支援等、本学の現状及び今後の対応などの検討を行います。

※「留学生30万人計画」
日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界間のヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年を目途に30万人の留学生受入れを目指すもの。

PLAN 5 留学生の生活支援の充実のため、融資事業の実施や地域と連携した住環境整備等の新たなプログラムを導入します。

PLAN 6 海外からの研究者や留学生が山形を知るための資料として「Yamagata Information Book」を5カ国語で作成し、海外関連機関等に提供します。



ハノイサテライトの設置





執行担当

北野通世 理事

組織運営・人事

Organizational Management

【基本方針】

学長を中心とした効率的な大学運営を支える機能的な組織運営を行います。人事評価を基礎とする教職員の処遇の具体化を図ると共に、研修制度を見直し、職員能力の開発のための方策を検討します。

PLAN 1 継続して事務の効率化に取り組むとともに、平成20年度に実施した事務組織の改革の成果と問題を分析して、改革の目的を実現するために必要な措置を施します。

PLAN 2 教養教育の改革に伴う新たな教養教育・全学教育を実施するための組織整備の一環として、小白川キャンパス内に設置されている教育研究施設等(学術情報基盤センター、高等教育研究企画センター、国際センター、教職研究総合センター、外国語教育センター、附属図書館、附属博物館)を、設置形態も含め全面的に見直し、新たに組織化します。

PLAN 3 教育研究組織の見直しに関しては、小白川3学部との連携による大学院博士課程の新設の問題について検討を進め、一定の結論を得るようにします。また、小白川キャンパス全体の教育研究施設・設備の有効利用を図るようにします。

PLAN 4 ジョブローテーション※を有効に機能させるため、事務職員の能力と意欲を高めるための研修のあり方について、2010年4月の実施を目的に、人事及び労務の両面から検討します。

※ジョブローテーション
職員に多くの仕事を体験させるように、人材育成計画に基づいて、定期的に職務の異動を行うこと。

PLAN 5 人事評価の本格実施に伴い、人事評価に基づく処遇を実施します。

PLAN 6 事務職員の採用について、東北地区国立大学法人職員統一採用試験※によるほか、今年度実施した経験を踏まえ、必要な検討を加えた上で、一定分野の能力に優れた職員の選考採用を行います。

※国立大学法人職員統一採用試験
2004年に国立大学が法人化したことに伴い、職員の採用方法は人事院が実施する「国家公務員採用試験」から国立大学法人等が独自に実施する「国立大学法人等職員統一採用試験」に変わりました。



学長オフィシアワー



学長オフィシアワーは、本学がキラリと光る存在感のある国立大学として発展するために、学長が学生・教職員と直接対話し、本学の運営に質することを目的とするものです。

情報発信

International Exchange

【基本方針】

本学の広報媒体の階層間の関係を整理し、機動的かつ体系的な広報活動を可能にし、情報発信の密度を上げるとともに、情報発信の国際化を進めます。

PLAN 1 広報媒体を整理し、階層化した上で、各階層間の関係付けを図り、体系的な広報活動を行います。

PLAN 2 情報発信の国際化の第1段階として、英文情報の発信を充実させます。具体的には、本学の英文ホームページを充実させ、本学概要の英語版を改訂します(このために概要の編集日程を変更します)。また、本学の特色ある教育研究等を海外へ積極的に発信する方法について検討を開始します。

PLAN 3 現在受動的な機能にとどまっているインフォメーションセンター※に大学の広報窓口としての本来の機能を持たせ、さらにコンサートやテーマ展を開催するなどインフォメーションセンターの積極的活用を図ります。

※インフォメーションセンター
大学・学部案内や公開セミナーの要項、広報誌等各種資料は随時無料配布し、山形大学に関する研究紹介や新聞記事も閲覧可能。本学の中堅事務職員による第1回SD研修において検討された「山形大学創出プロジェクト」の1つとして計画が進められたもの。

PLAN 4 情報公開及び個人情報保護に関しては、2008年に作成したマニュアルを基礎に開示等の業務の迅速化を図り、情報開示及び個人情報保護制度の適正な運用に努めます。



インフォメーションセンター



インフォメーションセンターは、平日(祝日を除く)午前10時から午後4時30分まで開放しています。一般市民の方もご自由にお入り下さい。





執行担当

三 觜 守 理事

財務

Accounting

【基本方針】

教育・研究・社会貢献等、本学業務の一層の質の向上と確実な遂行のため、自己収入の確保とその増加や、予算の効率的な執行に努め、適切な財務内容の実現を図ります。

PLAN 1 入試アドバイザーによる高校訪問などの学生募集活動の充実により、適正な志願者数及び安定した入学者数を確保し、安定的な学生納付金収入を図ります。

PLAN 2 附属病院再整備に伴う診療機能の充実等により、附属病院収入の増収を図るとともに、未収金の削減に向けた取り組みを強化します。

PLAN 3 資金状況の適切な把握を行い、安全性に配慮しつつ、積極的かつ効果的な運用を図ります。

PLAN 4 戦略的・効果的な学内予算配分方法を確立するとともに、教育研究環境を充実するため、設備マスタープランを推進し、老朽化した教育研究設備を計画的に更新します。

PLAN 5 財務会計の適正性を確保しつつ、会計業務の一層の効率化を図るため、機能的な会計運用システムの構築を目指します。

EM

Enrollment Management

【基本方針】

入学前から卒業後までの一貫した学生中心の大学創りを、学生満足度の調査分析などの諸活動を通じて推進します。

※エンrollment・マネジメント(Enrollment Management)大学の入学前から、入学、在学中、そして卒業後までも含め、一貫して学生をサポートしていきこうとする総合的な学生支援の考え方。

PLAN 1 学生満足度、休・退・除籍学生のプロフィールなど大学に係る各種情報の調査分析(IR機能)を充実し、その分析結果を大学運営に反映させ、学生中心の大学創りの進展に努めます。

PLAN 2 学校基本調査、入学試験実施状況、財務レポートなどの学内既存ドキュメントの共有システムである「ファクトブック」の利用者ニーズ把握に努め、登録情報内容の体系化及び充実を図り、学内情報資源の更なる共有化を目指します。

PLAN 3 「山形大学校友会※」との連携を図り、卒業生等との積極的な関係づくりに努めます。

※山形大学校友会
山形大学の学生の学業及び課外活動への助成等学生生活の全学的な活動に支援を行うとともに、会員相互の親交を図ることを目的とする会。

PLAN 4 学生の教育・研究活動を支援するため、戦略的かつ効果的な寄附募集活動を展開し、「山形大学未来基金※」の増額を図ります。

※山形大学未来基金
山形大学の優秀な学生に対する学修・生活支援として支給する「山形大学YU Do Best奨学金」を安定的かつ適切に運用し、山形県、さらには我が国の「知の拠点」として多くの優秀な人材を輩出するという本学の責務を果たすことを目的とする基金。

業務改善

Business improvement

【基本方針】

業務改善を着実に進め、効率的かつ適切な大学運営を行うとともに、大学としての社会的責任を果たすため、総合的なリスクマネジメントに取り組みます。

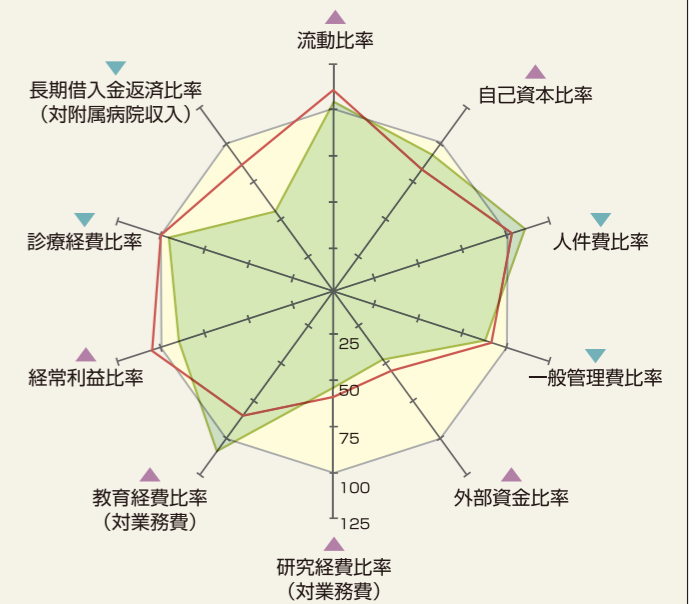
PLAN 1 「意志決定のスピードアップ」と「事務手続きの簡素化」を図るため実施した様々な事務改革について検証を行い、更なる改革を行います。

PLAN 2 事務の効率化を更に推進するとともに、教職員から広く業務改善案を求めると、業務改善を継続的に実施し、職員の意識改革を行います。

PLAN 3 本学の目標・計画を達成するため、教育研究及び診療活動その他で発生が想定される様々な事象に対処するリスクマネジメント体制を構築します。特に新型インフルエンザ等の感染症に対して、迅速かつ適切に対処できる体制を整備します。

PLAN 4 学内におけるリスクマネジメント体制を浸透・定着させ、職員のリスクマネジメントへの意識向上を図るため、各キャンパスにおいて講演会を実施します。

平成19年度 山形大学の財務状況
【全国平均に対する割合】



▲多い(高い)方が望ましい ▼少ない(低い)方が望ましい

山形大学 同規模大学 全国平均



本学は「自己資本比率」が高く、「附属病院収入対長期借入金返済比率」が低いことから、同規模大学平均と比べると、財務の安定性が良いことがわかります。



平成21年 1月 6日
山形大学

平成21年度運営費交付金等の内示状況について

平成20年12月22日付けで、文部科学省から平成21年度山形大学運営費交付金等の予算内示がありましたので、内容等についてお知らせいたします。

1. 運営費交付金

平成21年度予算(案)	12,276百万円
平成20年度予算額	12,053百万円
増減額	223百万円(1.8%増)

【増減額の要因】

運営費交付金算定ルール(効率化)による減	△95百万円
特殊要因経費(退職手当、政策課題対応経費等)の減等	△361百万円
特別教育研究経費の増	679百万円

各大学の新たな取組や教育・研究を活性化するため特別に措置	
平成21年度予算(案)	910百万円
平成20年度予算額	231百万円

2. 新規組織整備等

① 研究科の新設

教育実践研究科(教職大学院)	入学定員	20人
----------------	------	-----

② 研究科の改組

地域教育文化研究科	入学定員	14人
(教育学研究科の廃止)	入学定員	△39人

③ 入学定員の改訂

医学部医学科	120人←110人(10人増)
内訳	緊急医師確保対策 5人増
	経済財政改革の基本方針2008 5人増

理工学研究科 (ものづくり技術経営学専攻)	入学定員	14人←8人(6人増)
--------------------------	------	-------------

3. 主な新規事項

- ①洗浄滅菌システム 4 1 1 百万円
病院内で使用された手術器具等の洗浄滅菌を効率よく行うシステム。
- ②地域在来作物の高度化利用研究 3 3 百万円
山形大学農学部では、長年にわたり在来作物の研究を行ってきたが、さらにその魅力を引き出す高度化利用研究を地域と連携し組織的に行う。研究成果は公開シンポジウム等を通じて地域に還元し、高度化、産地化、これを材料とした産業化に貢献する。
- ③臨床研修体制等充実経費 1 1 7 百万円
地域医療の「最後の砦」である国立大学病院における臨床研修指導體制の強化や若手医師の処遇確保、並びに病院スタッフの役割分担の推進に必要なコ・メディカルスタッフの充実を図り、国立大学病院の活性化を図るための経費。
- ④厚生補導特別経費 1 5 百万円
学生の人間形成の一助として、修学から卒業まで、学生のニーズに大学が責任を持ってきめ細かく対応する必要がある。心の問題や生活面での相談・支援業務、住居やアルバイトの斡旋等の経済面での相談・支援業務及び就職相談等への対応等、これまで以上に厚生補導體制の強化を行うための経費。

(お問い合わせ)

財務部財務ユニット (織田島・東海林)

電話 : 023-628-4041 (4046)

平成21年1月6日
山形大学

大学連携推進室を設置

山形大学は1月1日付けで「大学連携推進室」を設置しました。

【背景】

- 18歳人口の減少、大学進学率の50%超、国立大学の再編・統合の要請が続く中、各大学は、個性や特色を明確にした上で、大学教育の質の保証に向けて競争と協働が重要になってきています。
- 山形大学では、「大学コンソーシアムやまがた*1」、「立命館大学との交流協定*2」、「五大学間交流協定*3」など、すでに多方面との協力関係を構築しておりますが、今後、さらにこれらの関係を強化・推進する必要があると考えています。

【大学連携推進室の具体的事業】

(1) 「大学コンソーシアムやまがた*1」に関すること

*1 平成16年に設立された山形県内の大学・短期大学・高等専門学校・放送大学等の11教育機関と山形県の連合組織です。

(参考：「結城プラン2009」における記載)

「大学コンソーシアムやまがた」における各機関との連携を基盤として、単位互換及びeラーニングの充実、産学官連携、知的財産に関する普及活動などを行うため大学連携推進室を設置し、「大学コンソーシアムやまがた」を抜本的に強化・発展させる。

(2) 大学間交流協定に関すること

① 「立命館大学との協力協定*2」に関すること

*2 平成20年に締結した教職員や学生交流、共同研究を目的とした協力協定。平成20年度は学長の相互訪問による講演会のほか、学生交流、職員交流を実施しました。

② 「五大学間交流協定*3」に関すること

*3 平成8年に群馬大学、徳島大学、愛媛大学、熊本大学及び山形大学で締結した相互の交流と協力を推進することにより教育・研究の充実を図ることを目的とする協力協定。

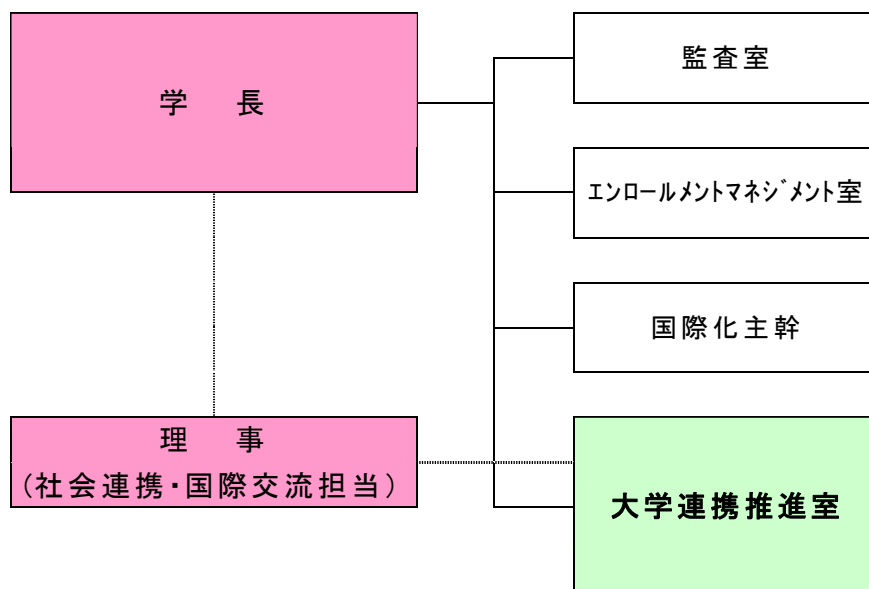
(3) (社)国立大学協会*4 に関すること

*4 平成16年に国立大学法人が実施する教育・研究及び社会貢献に関する多種・多様な活動において、質の高い成果を挙げるための環境作りを行うことを目的として設立された全86国立大学法人が会員となっている社団法人。

(3) その他大学連携の推進に関すること

「戦略的大学連携支援事業」に関すること

【大学連携推進室の組織】



職員構成：室長（担当理事兼務）、専任教員4名、専任職員7名

専任教員の担当分野

最上川学
単位互換・eラーニング
研究環境整備・産学連携
国際交流

(お問い合わせ先)
大学連携推進室 樋口
電話：023(628)4804
e-mail: higu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成21年1月6日
山形大学

山形大学男女共同参画シンポジウムの開催について

山形大学における男女共同参画のあり方を議論する場として、1月23日（金）小白川キャンパスにおいて「男女共同参画シンポジウム～本格スタート！山形の男女共同参画～」を開催いたします。

1. 実施概要

日時：平成21年1月23日（金）13：30－17：00
場所：山形大学小白川キャンパス127教室（教養教育棟1号館2階）
※医・工・農は、テレビ同時配信
医学部：視聴覚教室（学生実習講義棟2階）
工学部：中示範C教室（講義棟2階）
農学部：402講義室（3号館4階）

プログラム：

- ・基調講演：板東久美子氏（内閣府男女共同参画局長）
- ・パネルディスカッション
- ・男女共同参画推進宣言

※〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

2. 山形大学の男女共同参画への取り組み

山形大学は、教育、研究、地域貢献、国際交流等のすべての活動において「男女共同参画社会基本法」の理念を踏まえ、地域のリーダーとして活動する立場にあります。

そのためには、すべての学生と教職員が性別にかかわらず個性と能力を発揮できる大学作りを推進することが重要であり、男女がいきいきと働ける職場作りに積極的に取り組んでまいります。

この一環として、11月の男女共同参画推進準備室の設置に引き続き、「男女共同参画シンポジウム」を開催いたします。

3. 託児あり（事前申込が必要）

託児希望の方は、お子様のお名前・年齢・性別、アレルギーの有無や留意点を、参加申込と併せてお申込下さい。

（お申し込み）

氏名・住所・電話番号をご記入の上、お申し込みください。

メール：danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

FAX：050-7525-6725

（お問い合わせ）

研究支援ユニット 松森 康夫

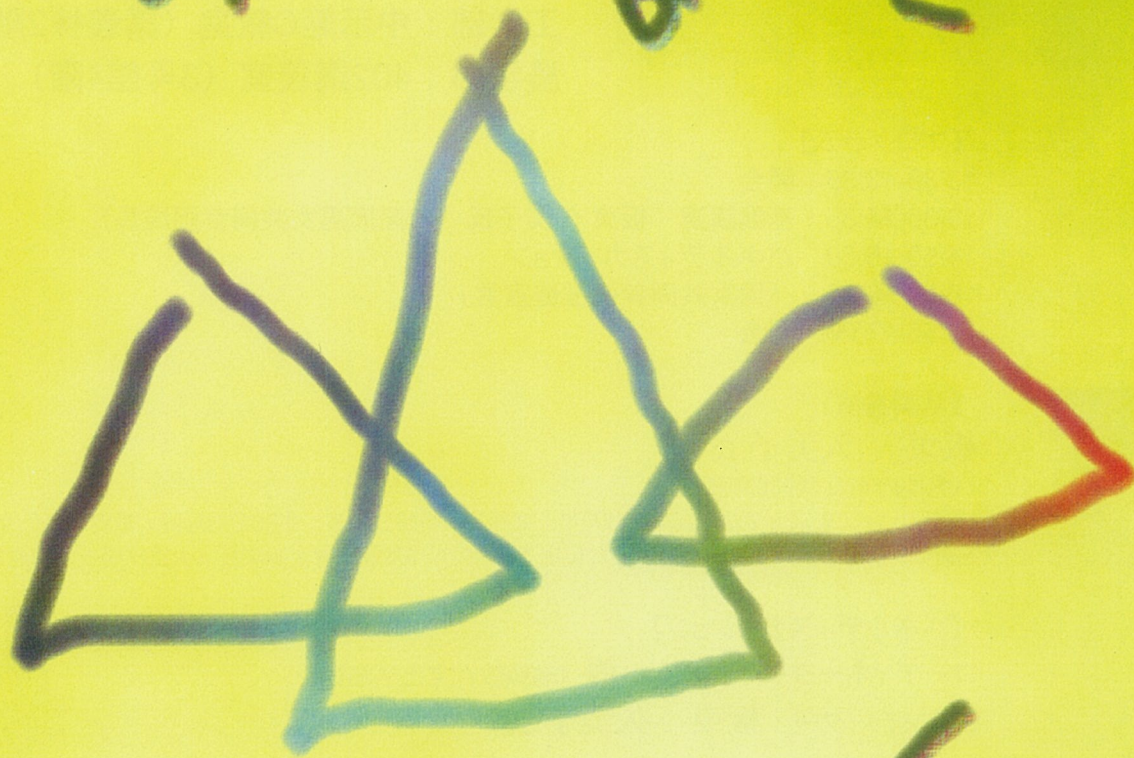
TEL：023（628）4839

山形大学

男女共同参画△シンポジウム

～本格スタート! 山大的男女共同参画～

みんな



さんかく

【基調講演】

板東 久美子 氏 (内閣府男女共同参画局長)

【パネルディスカッション・パネリスト】

塩満 典子 氏 (お茶の水女子大学教授)

荒木 由季子 氏 (山形県副知事)

坂本 由美子 氏 (山形新聞記者)

大森 征樹 氏 (日本たばこ産業株式会社)

高木 直 (コーディネーター・地域教育文化学部教授)

■申込方法 氏名・住所・電話番号をご記入の上、お申込みください。

※当日参加も受け付けます。

メール ; danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp FAX ; 050-7525-6725

託児あり (お子様の年齢と性別をご記入の上、事前にお申込みください。)

平成21年1月23日(金)13:30-17:00

山形大学小白川キャンパス127教室

(教養教育棟1号館2階)

※医・工・農は、テレビ同時配信します。

医学部：視聴覚教室 (学生実習講義棟2階)

工学部：中示範C教室 (講義棟2階)

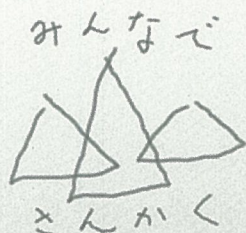
農学部：402講義室 (3号館4階)

主催 / 山形大学

後援 / 山形県 山形新聞社 AISOHO企業組合
(特) やまがた育児サークルランド

男女共同参画△シンポジウム

～本格スタート! 山大的男女共同参画～



平成21年1月23日(金)13:30-17:00

山形大学小白川キャンパス127教室
(教養教育棟1号館2階)

※医・工・農は、テレビ同時配信

医学部：視聴覚教室（学生実習講義棟2階）

工学部：中示範C教室（講義棟2階）

農学部：402講義室（3号館4階）

【プログラム】

- 13:30-13:35 開会
13:35-14:35 基調講演 板東 久美子氏（内閣府男女共同参画局長）
14:50-16:50 パネルディスカッション
16:50-16:55 「男女共同参画推進宣言」
16:55-17:00 閉会



【基調講演】

板東 久美子氏

（内閣府男女共同参画局長）

徳島県出身。東京大学法学部卒。1977年、文部省（当時）入省。生涯学習局婦人教育課長、文化庁著作権課長を経て、秋田県副知事。文部科学省に戻り、高等教育局高等教育企画課長、大臣官房人事課長などの後、現職。

【パネルディスカッション】

コーディネーター：高木 直（地域教育文化学部教授）

コメンテーター：板東 久美子氏

パネリスト

塩満 典子氏（お茶の水女子大学教授）

1984年、東京大学理学部卒、科学技術庁（現文部科学省）入庁。1990年、ハーバード大学行政大学院公共政策学修士。文部科学省宇宙政策課調査国際室長、奈良先端科学技術大学院大学教授、内閣府男女共同参画局調査課長等を経て現職。2007年、日本女性科学者の会功労賞受賞。

荒木 由季子氏（山形県副知事）

1983年、通商産業省（現経済産業省）入省。博覧会推進室長、資源エネルギー庁新エネルギー対策課長などをを経て、2006年7月国土交通省総合政策局観光経済課長、2008年7月より現職。

坂本 由美子氏（山形新聞編集局報道部主任）

新庄市出身。山形大学卒。1998年入社。長井支社、本社社会部を経て、現在、山形市政と、県内の子育て情報を掲載する「やまがた わいわい子育て」（毎週月曜朝刊）を担当する記者。

大森 征樹氏（日本たばこ産業株式会社）

仙台市出身。1997年、日本たばこ産業株式会社入社。経営企画部、食品事業本部等を経て、2007年7月より人事部。現在は、要員計画などの人事戦略を担当。2006年、2008年の二度、育児休職を取得。

■ 申込方法（当日参加も受け付けますが、事前申込にご協力ください。）

氏名・住所・電話番号・託児希望の方はお子様の年齢と性別をご記入の上、お申込みください。

メール；danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp FAX；050-7525-6725 託児あり（事前申込が必要です。）

平成21年1月6日
山形大学

世界天文年公認イベント「ガリレオの見た宇宙」の開催について

2009年は、ガリレオ・ガリレイが望遠鏡で天体観測を始めた1609年から400年の節目の年。これを記念して、国際天文学連合（IAU）や国連などが呼びかけた世界天文年がスタートします。
山形大学でも世界天文年公認イベントを開催いたします。

1. 講演会について

日時：平成21年2月14日（土）14：00－16：00
場所：山形大学理学部大講義室
講演会：「ガリレオの見た宇宙」
講演者：渡部潤一氏（国立天文台）
世界天文年「日本企画委員会」委員長
※〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

2. 世界天文年公認イベント概要

山形は、超新星発見で世界トップランナーの板垣公一さんがおり、また、山形大学理学部では宇宙物理学の研究も盛ん、また、市民が宇宙や星空を楽しむための「やまがた天文台」「4次元宇宙シアター」を擁する天文では全国で有数のアクティブな県でもあります。「やまがた天文台」は市民のNPO法人小さな天文学者の会と山形大学とで共同運営されています。本講演会は、やまがた天文台設立5周年記念および同NPO法人創立10周年記念の行事でもあります。

世界天文年公式ページ	http://www.astronomy2009.jp/
やまがた天文台	http://astr-www.kj.yamagata-u.ac.jp/yao/
NPO法人小さな天文学者の会	http://ksirius.kj.yamagata-u.ac.jp/shoten/
山形大学理学部	http://www-sci.kj.yamagata-u.ac.jp/

(問い合わせ先)
山形大学理学部宇宙物理研究グループ
NPO法人小さな天文学者の会事務局
いずれも 柴田研究室 柴田または佐藤まで
Tel 023-528-4552
Fax 023-628-4567

宇宙最前線講演会

NPO法人小さな天文学者の会発足10周年
やまがた天文台開設5周年記念行事



宇宙 解き明かすのは
あなた

世界天文年

2009

ガリレオの見た宇宙

講師：渡部潤一（国立天文台）



2009年はガリレオが望遠鏡を
使って初めて宇宙を見てから
400年の記念の年です。
世界天文年として世界中で
お祝いされます。この機会に
ガリレオの発見を振り返り、
そして、その後発展した現代
の天文学を、テレビや雑誌等
おなじみ国立天文台、
渡部潤一先生が語ります。

日時：2009年2月14日（土）

時刻：14:00～16:00（開場13:30）

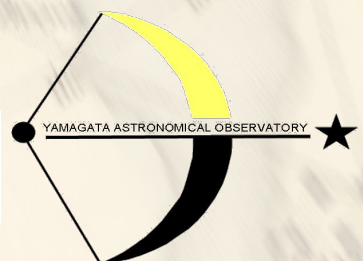
会場：山形大学小白川キャンパス理学部大講義室

入場無料、予約不要、当日会場へお越しく下さい

お問い合わせ先：023-628-4552

主催：小さな天文学者の会 協力：山形大学理学部

後援：世界天文年2009日本委員会



プレス通知資料（概要）

平成21年1月6日
山形大学

1. 平成21年度入試直前相談会の開催について

（概要）

山形大学入試直前相談会を仙台市、山形市の2会場で開催します。

山形大学への入学を考えている方、入試に関する疑問がある方、山形大学をもっと知りたい方などは、是非、会場にお越しくください。

「仙台会場」

日 時：平成20年1月24日（土） 13:00～16:00

会 場：仙台市情報・産業プラザ アエル5F 多目的ホール

〒980-6105 仙台市青葉区中央1丁目3番1号（アエル内）

〔山形会場〕

日 時：平成21年1月25日（日） 13:00～16:00

会 場：山形テルサ3F 研修室A、交流室A

〒990-0828 山形市双葉町一丁目2番3号

問い合わせ：エンrollment・マネジメント室

（TEL）023-628-4062, 4063

※〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

2. 第2回「置賜バイオマスフォーラム」の開催について

（概要）

本フォーラムは、先進事例や置賜管内の取組み事例を紹介しながら、バイオマスについての理解を深め、各地域でのバイオマス利活用の取組を促進するために開催いたします。

日 時：平成21年1月19日（月） 13:30～17:00

場 所：置賜総合支庁本庁舎 2階 講堂

参加費：無料（無料臨時託児所あり：要予約）

定 員：100名

問い合わせ：工学部研究支援室 池野

（TEL）0238-26-3004

※〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

山形大学

平成21年度 **入試直前**

相談会開催!

受験生とその保護者の方から、高校教員、入試関係者の方々まで。ぜひ、お気軽にご参加ください。

仙台会場

日時:平成21年

1/24 土

13:00~16:00

会場:仙台市情報・産業プラザ
アエル 5F多目的ホール

〒980-6105 仙台市青葉区中央1丁目3番1号(アエル内)
※駐車場は用意しておりませんのでご了承ください。



山形会場

日時:平成21年

1/25 日

13:00~16:00

会場:山形テルサ3F
研修室A 交流室A

〒990-0828 山形県山形市双葉町1丁目2番3号
※駐車場は用意しておりませんのでご了承ください。



山形大学概要説明、各学部個別相談、資料配布コーナーを設けます。
事前参加申込みは不要です。この機会にギモンシツモン
どしどし、お受け致します。

迷わず問題解決!



担当:山形大学エンrollment・マネジメント室
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 TEL:023-628-4062・4063 FAX:023-628-4185
e-mail: enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



第2回「置賜バイオマスフォーラム」

～バイオマス利活用の普及啓発を目指して～

< 開催要綱 >

平成15年に発足した置賜バイオマス利活用推進研究会では、農業・食品残材等の未活用バイオマスの利用促進を目的とした技術開発・評価を通して、バイオマスの利用（搾りかすを家畜飼料として使用）の促進、さらに、これによる農業分野・食品工業分野の連携・発展を目指してきました。

本フォーラムは、先進事例や置賜管内の取組み事例を紹介しながら、バイオマスについての理解を深め、各地域でのバイオマス利活用の取組を促進するために開催いたします。

■日 時 平成21年1月19日(月) 13:30～17:00

■場 所 置賜総合支庁本庁舎 2階 講堂

■参加費 無料（無料臨時託児所あり：要予約）

■定 員 100名

■プログラム

13:30～ 挨拶 置賜バイオマス利活用推進研究会

<基調講演>

13:40～ 「置賜地域におけるバイオマス利活用の可能性」

～イノベーション過程からのアプローチ～

株式会社循環社会研究所 代表取締役 戸村 信夫 氏

<先進地の取組みから>

14:30～ 事例報告 「新しい下水汚泥燃料化事業による取組み（仮題）」

バイオソリッドエナジー株式会社

バイオマスエネルギー研究室 主任研究員 光山 昌浩 氏

15:00～ 休憩（10分間）

<置賜地域における取組み>

15:10～ 事例報告 「レインボープランから広がるまちづくり（仮題）」

レインボープラン推進協議会 会長 江口 忠博 氏

15:40～ 事例報告 「ワインの搾りかすを家畜の飼料に（仮題）」

山形県立置賜農業高等学校

生物生産科 3年 竹田 圭祐 さん 他4名

15:40～ 事例報告 「木質バイオマスを原料とした生分解性プラス

チック及びバイオエタノール製造プロセスの開発（仮題）」

東北カーボン株式会社 小田 雄介 氏

16:40～<質疑・応答>

16:50～ 置賜バイオマス利活用推進研究会会長総括

※講演会場を活用して、パネル、パンフレット展示を行い、研究会関係企業等の取組みの情報提供を行う予定です。

■参加対象：農林業者、民間企業、NPO等各種団体、一般県民（高校生以上）、大学研究機関、地方公共団体などのバイオマスにご興味のある方々。

- 主 催 置賜バイオマス利活用推進研究会
- 後 援 山形大学大学院VBLグリーンラボ
- 協力機関 置賜“MOTTAINAI”研究会

■問合せ先

〒992-0012 山形県米沢市金池7丁目1-50

置賜総合支庁産業経済部産業経済企画課 産業振興担当 廣谷

TEL：0238-26-6045、FAX：0238-26-6047

E-mail：hiroyay@pref.yamagata.jp

置賜バイオマス利活用推進研究会は、山形大学大学院、関連企業と行政が一体となり、バイオマスの利活用推進に関する研究を行い、山形県地域産業の活性化と環境循環型社会の構築に資することを目的として設置されたものです。

【平成20年12月8日現在の研究会構成員】

山形大学大学院、米沢市、(株)東北バイオマス技研、我妻建設工業(株)、(株)東北食糧、(株)勝組、東北カーボン(株)、(有)ネクスト環境コンサルタント、(株)後藤組、(有)トータル・システム、(株)R・F・B 福島、置賜総合支庁〈事務局〉

山形大学VBLグリーンラボは、(1)情報集積とその共有、情報発信し得る密で高い活力を有する人的ネットワークの立上、(2)要素技術の確立と物質変換プロセス技術の集約、(3)未活用資源を環境低負荷技術で有機的に利用し得る社会システムの構築確立を目指し、県内外企業や公共団体からの問題や技術相談に対し、関連する研究者や組織と連携して課題を検討し、その成果を相談者に情報提供するために設立されたものです。

【平成20年12月8日現在のスタッフ】

山形大学VBL長 高橋 幸司 教授、プロジェクト代表者 多賀谷 英幸 教授

プロジェクトスタッフ 宍戸 昌広 准教授、遠藤 昌敏 准教授、木島 龍朗 准教授、高畑 保之助 教

詳細は、URL：<http://www.vbl.yamagata-u.ac.jp/research/green-lab.html> を参照願います。

置賜“MOTTAINAI”研究会は、管内における食品未利用資源の飼料化等に関するシステム構築を目指して、飼料化の研究及び飼料給与方法の検討を行い、置賜地域ならではの資源循環モデルづくりと管内への普及啓発を図ることを目的として設置されたものです。

【平成20年12月8日現在の研究会構成員】

高畠ワイン(株)、浜田(株)、山形食品(株)、(株)山田鶏卵、山研おきたま農業協同組合、オフィスミーニング、県立置賜農業高等学校、山形県農業総合研究センター畜産試験場、やまがた地鶏振興協議会、置賜総合支庁〈事務局〉

会場案内図



■住 所 米沢市金池七丁目1番50号

■電 話 0238-26-6000〈山形県置賜総合支庁 本庁舎 2階 講堂〉

■会場アクセス タクシー／JR米沢駅より15分